



100年経営の会 シンポジウム

不変と革新

講演

講演



島津製作所 会長
服部 重彦氏

京都企業の生い立ち

京都は歴史の街であり、文化の街。しかし実は最大の産業は観光でなく、やはりモノづくりだ。ただ大きな化学プラントも鉄鋼プラントもない。空気をきれいにした中での産業が自然に芽生えている。現在はITを中心とするハイテク企業が大きなウェイトを占めている。京都は多くのベンチャー企業が育ち、デバイスなどで世界のIT産業をけん引するハイテクの街と言われている。一方には今でも陶芸、漆

トップの決断の積み重ね

で成長を継続しているという変わった街だ。京都には創業100年以上の長寿企業が170社ある。形態は多岐で、和菓子、繊維、お茶の道具、清酒、また料亭も多

い。例えば京都の経済界で正月に皆が集まると、こちらに年商2000万円の会社、あちらに1兆円の企業の社長さんと一堂に会して会合がある。京都特有の企業文化を考えると、まず「文化の伝承」がある。伝統産業をベースに新しい産業も生まれているというこ



もたくさんある。そして京都は学生の街でもあり「産学連携」は大きなキーワードだ。例えば深堀り、いい言葉で言えばこだわりの新しいベンチャーが育つ

ていないことだ。今後の京都の課題は産学連携も含めて、どういったベンチャーをインキュベートしていくかということだろう。島津について言うと創業が1875年(明治8)で、初代の島津源蔵が木屋町二条南で起業して産業界に打って出た。さらに科学技術に貢献しようとして、学生が使うような理化学機器を作り始めた。二代目源蔵は日本で初めての医療用レントゲンを開発するなど「日本のエジソン」と呼ばれた。パツテリ部門を、当時としては珍しく分社創業もしている。創業以来の精神は「科学技術の発展で社会に貢献する」ということだ。

世界中にある連結企業や代理店なども含めると約2万人が事業を支えている。企業が継続してこそ、人生を会社にかけて多くの社員を守れると考える。しかし会社とは大きな危機に何度も直面することがあるもの。そこで重要なのは一つはトップの決断の積み重ね。も



セーレン 会長兼社長
川田 達男氏

グローバル化の「企業は変わるか」100年企業の挑戦

グローバル化の波は高も進み繊維産業は斜陽企業へと挑戦していくかという。今年で124年目を迎える企業で、たいへん厳しい繊維産業の環境の中、生き残りをかけて頑張っている。1960年代まで日本の繊維産業は基幹産業として発展していった。私も62年入社で良い環境の中仕事をしていた。ところが71年のニクソン・ショックを境に、オイルショック、第2次オイルシ

繊維技術の可能性を追求

の際たるものであった繊維産業にITをどれだけ取り入れられるかが21世紀の生き残りにつながる。また繊維産業の常識では、企画、原糸の製造、

いうことで、2年間で立ち直った。私どもの経営理念はすべての社員が共有できる意識「のびのび・いきいき・びちびち」を25年間

つてのびのびと、責任感を持っていきいきと、使命を持ってびちびちと毎日の仕事に挑戦しようという。それまでは会社が社員を変えようという管理手法だったが、

自主性・責任感・使命感を具体化して社員が会社を変えて、活性化していくように転換していった。組織を挙げて会社を変革しようという中で、行革推進本部を作った。

織・編・加工・縫製販売それぞれが別の業界だったが、常識を破ってすべての工程を内製化しようと考えた。それまでの染色加工から一貫体制に

中、日本市場のアパレル製品の96・2%は輸入品と、国内繊維産業は壊滅的な状況となっている。こんな環境の中で繊維産業として本当に生き残れるのか。まずビジョンとして繊維産業の「非常識」に挑戦しようと考えた。繊維産業の技術を、いわゆるこれからの成長産業、先端産業といった「非衣料」に展開できないかということだ。

それからアナログ産業

地元福井県には東尋坊があるが、崖っぷちというか後がない「東尋坊作戦」だったともいえる。会社を変えていかなければならないという中で、変えてはならないこともある。そういった成長の遺伝子、コア・コンピタンスというものがあ

るはずだ。それは絶対に繊維の技術の延長線以外はやらないということ。繊維にはとても大きな可能性があり、自分たちでも驚くほどいろいろな市場に向けて提案ができて

いる。例えば自動車の内装材は世界市場の15%くらいシェアとなっている。また電気自動車などの電池から出る電磁波のシールドとして鉄板の代替として、繊維と金属を複合したものを開発している。そのほか「セリシ

ン」という繭から出るタンパク質などの研究も進んでいる。こうした中から新規事業も創り、21世紀を生き残っていき

たい。そのほか「セリシ

ン」という繭から出るタン

パク質などの研究も進

～未来への街づくり～ 東北／防災・減災 ソリューションフェア

出展！
募集中

既に約50社が
予約・検討

伝えよう、未来に教訓と備えを

詳しくは公式HPから

<http://www.nikkan.co.jp/leve/tohoku-bousai>

2013年(平成25年)

2月27日水・28日木

10:00～17:00

会場：夢ミヤギ

(仙台市宮城野区港3丁目1-7)

主催：日刊工業新聞社

出展対象

- 地震対策(緊急地震速報システム、耐震技術 等)
- 火災対策(火災報知器、消火器、消火システム 等)
- 津波・水害対策(止水板、ポンプ、防水シャッター、観測・予測システム、洪水対策技術 等)
- 土砂災害対策(土砂・落石探知システム、土のう、GPS・GIS 等)
- 雷害対策(避雷器、雷防護関連製品、コンピューターバックアップシステム 等)
- 突風・竜巻対策(気象監視技術、解析システム 等)
- BCP(事業継続計画)
- 避難所支援(浄水器、造水機、プライバシー保護関連製品、非常食、仮設テント、災害用トイレ 等)
- 医療・介護支援ゾーン(救急搬送システム 等)
- 総合防災システム(ライフライン復旧・確保、ハザードマップ、防災コンサルタント 等)
- 特別展示(省エネ・新エネ・スマートコミュニティを実現する各種製品・技術)

出展料金

屋内小間 (1小間約9㎡/間口2.97m×奥行2.97m×高さ2.7m)	189,000円(税込)
屋外小間 (1小間約9.5㎡/間口3.55m×奥行2.67m)	94,500円(税込)

出展申込締切

2012年11月30日(金)